
詩

LOVE

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

詩

【コード】

N1402P

【作者名】

LOVE

【あらすじ】

小説ではなく、詩だと思います（笑）
すみません。

なので、あらすじが書けません。

幸せを呼ぶ君

彼は言う。

「君と俺はどういう関係？」

「恋人じゃない。友達じゃない。親友じゃない。」

何？

隣にはいつもいて、隣にはいつもいない。
不思議な人。

いつでも仲が良くて、いつでも仲が悪い。
幼稚園児みたいな二人。

毎日会っていて、毎日会っていない。
おかしな二人。

いつも君を気にしている自分がいる
いつも君に負けている自分がいる
悔しがる自分と、悔しがる君。

君の勝ちなのに、悔しがる人がいる。

君が勝って私は負けているのに、嬉しかった。

君が休むと、悲しかった。

・・・寂しくて・・・授業が遅く思えた。

君が学校に来ると、楽しくなった。

時間が好きに思えて、授業が早く感じた。

君といる時間と、いない時間は、同じくらい。
でも……

君といない時間は、もっと長く感じるし、
君といる時間はほんの一瞬に思えるよ

何故かな。どうしてかな。

君がいなくなると、涙が出た。

他の女の子といると、君が嫌いになった。

君がいて、幸せ。

幸せがあつて君がいる。

君といると、人生で一番幸せ。

ああ、そうか。大切な人なんだ。

ああ、そうか。大好きな人なんだ。

ああ、そうか。この世とは、彼なんだ。

そう思う瞬間、そう思うトキ。

そう思う1分、1秒が、幸せ。

君がいなかったら、幸せがない。

そう思う。ケド、

君がいなかったら、きっと……

いつも何もなかった。

そんな毎日を変えてくれた君が好き。

そんな毎日を変えてくれた君に言う。

「ありがとう。」

夢と現実

夢は儚く消える。

夢は一生途絶えなく、人の…人類の希望。

君は夢はもうあって、でもそれは決して叶うはずが無い夢だった。

それでも君は諦めない。

それでも君は希望を持つ。

私は夢はないけれど、

いつか叶わない夢を持ちたい。

決して叶うはずが無い夢を持ちたい。

そう思わせる君がいた。

君は、いつか居なくなった。

突然現れて、突然居なくなる。

不思議な君と、現実な私。

夢の中の君と、起きた世界の私。

二人は離れていくはずなのに、なぜ…

二人は仲良くないはずなのに、なぜ…

二人は知らないはずなのに、なぜ…

いつも笑顔でいるのだろう。

命は儚い

命、人間に与えられた、今いるために一番必要なもの…

命、生きるために、人生に必要なもの…

この世には、自殺という言葉がある。

自殺とは、自分の手で死ぬことだ。

自ら命を途絶え、

自ら命を捨て、

自らあの世に行くことだ。

私達には生きる権利がある。

神様がくれたからだ。

今生きているからだ。

人類があるからだ。

自殺はやめる

それが

世のため、人のためだから。

自殺をした奴はきつとこころ思う

ああ、もっと生きればよかった

ああ、もっと全力を尽くせばよかった

ああ、またあいつに会いたい

もっと生きて、もっと全力でもっと人と触れ合う

それが生きる

それが命。

歌への気持ち

歌、歌詞をただ言うだけでなく、気持ちを込める、

意味のある…事。

短くても歌。

どんなに長くても歌。

英語でも歌。

日本語でも、フランス語でも…
何語でも歌。

伝えたくて歌う。

言いたくて歌う。

本音を言いたい！

あの気持ちを伝えなきゃ、

そんな気持ちが、本当の歌を作る。

ああ、なんてきれいな歌だろう。

この意味は何？

どんなものでも、歌。

気持ちを込めて、一緒に歌いましょう。

季節によって違う歌

年中歌える歌

卒業に歌う歌

校歌や、ラブソング

いろんな歌がありますが、

この世で一番いい歌は

あなたの好きな歌なのです。

個性だから

大好きなもの、それは人によって違う。

私はアニメが好き

踊りが好き

歌が好き

色々あるよね

色々あるよ。

絵をかくのが好き

パソコンが好き

食べるのが好き

運動が好き

色々あったりなかったり。

君は何が好き？
僕は歌が好き。

君は何が苦手？
僕は…刺しゅうが苦手。

色々知りたい

色々大好き

色々苦手

それは個性だから。

何にも出来ないわけでない。
どこかに長所が隠れてる

何でもできるわけでない。
どこかに短所が隠れてる

短所は悪いことでない
人はみんな同じだから。

でも、苦手と大好きはみんな違う

皆の個性がここにあるから。

殺意

ある人は言った

「人を殺さないのは偶然だ」と。

私は思う

「人を殺したいと思うのは偶然だ」と。

君は答えた。

「どちらもどちら。人は個性だから。」

私は思う

「そんな個性はいらない」

君は答えた。

「個性で必要ないものはない。」

私は言った

「殺人は必要か？」

君は言う

「でない」と平和がない。」

私はずっと思うだろう。

そんな事で平和は来ない。

きつと。

そんなことで平和を出したくない。

どうなんだろう。

どうしてだろう。
答えはいったいどうなるか。

卒業する君。

それは、人生に3・4回しかない。

幼稚園は、卒園。

次は小学校。

ここで初めて勉強というものを本格的にやる。

中学校。

ここで、幼稚園からの多くの幼馴染や、小学校の友達とわかる。だが、その一方で受験に追われる。

高校は、新しく友達ができる。

こうして見て行くと、早いものだ。

悲しいものだが、成長。

冷たいものだが、温かい。

喧嘩をした毎日。

一緒に何気なく笑った。

一緒に先生に怒られて、

一緒に・・・卒業。

卒業に考えた。

あの時、なんで泣いた？

あの時、なんで喧嘩した？

くだらない事で笑う。

小さなことで喧嘩する。

どおしてだろう。

君が笑うと、元気になれる。

君が泣くと、つられて泣く。

相談されて、一緒に困って。

恋愛の事もたくさん話した。

ねえ、覚えてる？

私が、修学旅行で泣いたこと。

理由を今言っね。

あの時

悲しかった。

君と一緒にいるのが最後の気がして。

君がどこかに行ってしまう気がして。

怖くなった。

一生一緒。

いつか君に言ったはずの言葉。

その約束、本当に守れる？

キット…平気だよね？

君は私の事、忘れない？

私は君の事、忘れない。

だから

忘れないでね？

一生の願いをここで使うから…

気持ち

喧嘩した。

次の日には、笑っていた。

次の日、優太は泣いていた。

一週間後。

優太はいなくなった。

いや、休んだだけであろうか。

君は、1ヶ月間、学校に来なかった。

先生に聞いてみる

「先生、優太は？」

「引越したよ。ほかの県に。」

なんでで言わない

もっと早く言ってくれれば、俺は言いたいことを
もっと沢山言っただけだ。

優太に電話したい。

番号を知らない。

優太にメールをした。

返ってこない。

秘密はナシにしたのに。

俺は優太を理解できなかった

俺は、そんな俺を嫌いになった。

でも、いつか言おう

優太に・・・

「出会ってくれてありがとう。」

と。

悲しいよ

ねえ。

このままじゃ、大好きなのに

嫌いになっちゃう

だから・・・

お願いだから・・・

仲良くしてね？

本当に君の事・・・

信じてるから！

ね
?

磁石

君のようで君でない

私のように私でないもの。

それは……

じゃあ、謎謎しましょ

誰？

じゃあさ、クイズを出します。

君から離れない磁石と私から離れる磁石があります

君と私も離れます。

どうしてだ。

でもさ、もし、磁石じゃなくて、ただの人間で

気持ちがあって、でもさ、それでも離れる二人だったら…

それは何故？

ある日、Nの磁石とNの磁石が離れて言いました

寂しいよね？

うん。すっごく寂しい

なんで離れるの？

人間が僕たちを別れさせるんだ！

どうしてそんなことするの？

人間が、罪を犯すから。

どうして僕らは離れるの？

.....磁石だからだよ。

そして、また離れる離れる。
僕らは一生離れたままなのか。

そんな寂しいNの磁石は...

泣きました。

永遠に…永遠に…

泣き続けたのです。

いる

色といっても、数えきれないくらい色々な色がある。

赤、青、紫、黒に白。

でも、なぜたくさんあるのだろうか。

だってだって、世の中、白だけでも良くない？

アニメの世界のように、白と黒だけという世界、青だけの世界。

別にそれでもいいと思う。

でもさでもさ、そしたら空の青はないよね。

夕焼けがないよね。

……悲しいね。

美しいと思う瞬間。

それがないのだと思う。

皆の見分けはつくのだろうか。

やっぱり、色は必要だ。

感動があるのは、色があるから。

今、私は嬉しくてたまらない。

色があるからだと思う。きつとね。

君はどう思う？

色は必要？

色は不必要？

君の考えを聞かせて？
ね？

変わらない

趣味趣味趣味趣味趣味・・・何回言っても変わらない。

好き好き好き好き好き好き好き好き・・・そのうちキスになるのだろっ。

何回言っても変わらない。

すもももももものうち

となりのきゃくはよくかきくつきゃくだ

ウラニワニハニワニワニワニワニワトリガイル

とうきょうとうつきよきよかきよくきよかきよくちょう

言えない。

変わらないし、人生でそこまで言えないものがある。
本当に愛した者に、

「愛してる」「やっ」「好き」「という言葉。

あなたは、言ったことがありますか？

私はまだない。

だって、すぐに言っちゃうの、もったいないし。

でも、気持ちは変わらない。

だから、気持ちは変わらない。

おいしいの。

オレンジ色のみかん。

おいしいの。

甘酸っぱいの。

ブによっとしてるの。

一つのものハズなのに……
どうしてだろう……色々あるね。

なんでなんだろう。

不思議じゃない？

色々あるね。

なんでだろう。

大好きなみかん。

大っ嫌いなみかん。

色々あるね。

色々あるよ。

だって。

色々あるもん。

答えになってないよおおおお
><
でも、答えになってるねえええええ
><

不思議な会話。
楽しいな。

普通の会話、
つまらない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1402p/>

詩

2011年10月8日03時12分発行